

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら横浜本牧教室			
○保護者評価実施期間	2025年 10月 7日 ～ 2025年 10月 31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	53名	(回答者数)	4 3名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 15日 ～ 2025年 10月 31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1 3名	(回答者数)	1 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的支援・プログラムが充実している	<ul style="list-style-type: none"> ・5年以上経験の指導員が在籍しており、個々のお子さまに対して適切な療育を行っている。 ・ネイティブによる英語プログラムの開催 ・言語聴覚士による専門的支援 実施 ・臨床心理士による 自己肯定感を高めるプログラムの開催 ・公認心理師によるマインドフルネス プログラムの開催 ・音楽教師による音楽・リラクゼーションプログラム の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚士による専門的支援を児発のお子さまへ拡大 ・こばんカレッジの開催による職員の療育知識の獲得 ・職員の外部研修への参加の強化 ・専門職による保護者様への勉強会の定期開催
2	保護者との丁寧な関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳や送迎時の連絡だけでなく、気になることがある時には当日に児発管が、連絡をするようにしている。 ・毎日、支援前ミーティング・支援後の振り返りを行い、お子さまの情報共有を行うことで、保護者様にもしっかりと連携ができるよう努めている。 ・関係機関と連携をし、保護者様の悩みには、多角的な視点から対応をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・HUGシステムでの連絡機能を、より保護者様へわかりやすく、充実した内容にパワーアップしていく。 ・個別支援計画の会議を朝ではなく、午後1時開催とし、より多くの非常勤スタッフも参加により、意見を多く獲得して、計画を策定する。 ・ペアレントトレーニングの定期開催の実施
3	外国人スタッフの起用	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語が難しいお子さまに対して、言葉の通じるスタッフがいて、安心感がある ・ネイティブな発音による英語プログラムを取り入れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・療育センターや、外国人の会などに出向き、日本語が難しい母子にアプローチをしていきます。 ・さらに、外国人スタッフの起用します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	人手不足 プログラムなどの準備時間の確保が十分でない	非常勤スタッフの当日欠勤が多い 専門スタッフを必要とするため、人材の採用が困難 人手不足	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年4月から、さらに常勤社員の人数を増やし、確実な出勤体制を構築する。 ・こばんはうす本部の採用強化施策に伴い、人材採用の取り組みを行う。 ・採用面接は、大切なお子さまを預かる上で最も大切であることから、社長・管理者・児発管3名が必ず行い、さらに現場職員とのコミュニケーションを計った上で、チーム支援に貢献のできるかを見極めたうえ慎重に採用を行う。 ・プログラム準備時間がしっかり確保できているかを、検証し、時間の確保を行う。
2	スペースの不十分さ	教室の構造化不足	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援時に、年齢を分けた活動をするためにカーテンを設置したことにより、年齢を分けた療育が可能となった。 ・クールダウンスペースを設置したことにより、しっかり落ち着くことのできるスペースを確保ができた。 ・スヌーズレンの導入により、よりクールダウンの効果を上げる。
3	保護者様支援の不足	<ul style="list-style-type: none"> ・母子分離の支援、また送迎があるため保護者様と丁寧にお話する時間が限られている。 ・ペアレントトレーニング等、家族支援が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様が気軽に支援の参観ができる体制づくりを行う。 ・定期的にペアレントトレーニングを開催するよう計画する。 ・保護者様に向けた専門職との勉強会を定期的に開催を計画する。 ・計画相談の比重を増やし、担当者会議等の支援を充実させる。